

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372300453		
法人名	社会福祉法人 広虫荘		
事業所名	グループホーム ひろむし		
所在地	岡山県和気郡和気町和気108		
自己評価作成日	平成25年6月14日	評価結果市町村受理日	平成25年6月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成25年7月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで風情あふれる環境、ご利用者一人ひとりに合わせた個別対応、ご家族様との信頼関係を大切に、レクレーション・散歩など積極的に行っており、余暇時間もコミュニケーションを図り楽しく過ごすことが出来る。併設の特養及び近距離に協力病院が有り安心した日々が送れる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念がしっかりと職員に伝わり、一人ひとりの思いを大切に、入居者の方々がここに来てよかったと思ってもらえる環境作りを目指している。自信と誇りを持って日々の支援に努め、ゆとりとふれあいを大切に、自立した毎日を送るために入居者全員に離床を促し、指先を使ってちぎり絵の自画像や紫陽花、七夕飾りなどADL(日常生活動作)低下防止に努め、共に生活を楽んでいる光景がみられた。協力病院もすぐ前にあり医療の面でも安心が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目の入るところに掲示し確認している。	職員全員が目に入るところに掲示されており、理念を確認しながら気持ちで接し、笑顔で和を持って支援するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加(公民館、小学校)案内を頂いている近隣を散歩し挨拶を交わしている。	地域の行事には、案内を頂き積極的に参加し、祭りの時には御神輿が来て、入居者を清め拜んでくれるなどふれあいも出来てきている。季節に応じて周辺の散歩、出来る限りの付き合い挨拶等が日常的になされている。	これからも地域の一員として実践に努め、日常的な交流に発展していける事を期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム新聞を毎月発行、役場、病院、家族に配布している。地域密着サービス連絡協議会において、地域包括センター、他のグループホームなど支援に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催、地域の情報を頂いたり、当グループホームの現状報告、様子をみていただいている。	2ヶ月に1回運営推進会議開催、経験者、指導者、薬剤師、地域包括支援センターの職員等の参加を得て情報をいただきグループホームの現状報告、又小さい苦情は宝として傾聴し意見をサービス向上に反映させるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会、地域密着連絡協議会には、参加して情報交換をしている。	和気町グループホーム、各事業所を順番に回り、事例を交えて意見交換、職員交流研修を実施、資質向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し、内部研修で取り上げ共通意識、理解をもって取り組んでいる。	研修会、内部研修で「身体拘束はしてはいけない」とケアの取り組みについて勉強会がなされ、職員全員が理解に努めリスクが起る前に早めに検討し対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等に参加、グループホーム内部研修でフィードバックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加、グループホーム内部研修でフィードバックしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし理解を得ている。変更時は随時文章でお知らせし、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置運営推進会議、家族会、面会に来られた時など、折に触れた時にお聞きする。援助計画書に移行など記入して頂く。	意見箱は玄関に設置。家族からは管理者、職員に小さい事でも何でも気軽に話してもらえぬ雰囲気作りに努め傾聴し、対応など工夫し援助計画に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時に随時聴くようにしている。	職員会議や、随時の意見交換の場で要望は代表者がしっかり傾聴し、現場の把握に努め可能な限り対応している。新ユニットの浴室は職員の意見で工夫がされていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、職員の面談を行い問題点や意見等話し合う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス連絡協議会に定期的に参加、町内施設と交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様、本人の話を傾聴し、生活歴等把握し、共感し支え合える関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方と、コミュニケーションをしっかりと行い信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族のニーズを見だし、その方に添ったサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気大切に、生活に張りを感じて頂くよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス計画書作成に当たり、直接お話しを聞き、計画、プランを一緒に考えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、ご家族の理解のもと来荘して頂く事もある。	年2回家族会議を実施、親戚の参加も歓迎し意見交換がなされている。家族と一緒に出かけられることもあり、広虫荘周辺の季節を感じながら、更に地域の行事は積極的に参加。面会の呼びかけで家族や親族の来所が定着しつつあり嬉しいとの事です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介したり、他の利用者様との交友関係が向上するよう、余暇時間にレクリエーション等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に入所された方々に面会に行くことができる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の気持ちに寄り添い、意向に添えるように努力している。	入居者との日常会話の中で、しっかりと傾聴、気付き、動作等把握し、職員がこれらを共有する、援助計画にも反映し穏やかに過ごしていただけるよう支援がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを参考にしながら、ご本人様、家族様に話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	プラン作成時に見直しをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回のミーティングにて、意見交換をしている。	日々接している職員の意見や家族の意見を大切にしながら一人ひとりがより良く暮らすため、モニタリング、カンファレンスで現状に添った介護計画がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、個人行動表を毎日記入し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題点を職員全員で考えながらより良い方向に行くように気配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月発行の広報誌を確認し問い合わせ等をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医(以前)にかかっていたら、そちらに診察して頂くなど、ご家族様の希望により決めて頂いている。協力病院より月2回の訪問診察。	家族の希望を大切に受診支援がされている。協力病院より月2回訪問診察、緊急を要した時は昼夜を問わず適切な医療の対応がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良等、体、心の変化を感じ気づいたら早めに病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後定期的に病院に看に行き、場合によっては、相談員に確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しても出来る限り支援させてもらう。	重度化、終末期について段階的に、しっかりと話し合うが、終末期は病院への希望が多いのが現状である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修により緊急時の対応を学び実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の防災訓練を行っている。	マニュアルを作成し地域や消防署の協力体制もできている、火災通報装置を設置しておりボタンをおすと通報できる。昼夜の避難訓練を年3回行っており、近日中に訓練実施計画あり。	今後も地震や水害など天災害に備え、防火防災の訓練にも取り組まれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性や自由を大切にし、良い関係が築けるよう努力している。	人生の先輩として支援する事を心掛け、明るく暖かく、自由を大切にした対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望を、その都度聴き支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで過ごして頂くよう、行事の参加等ご本人様の意志を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その時々々の気候に合った服装をして頂くよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備をしたり、配膳等出来ることはして頂いている。	企業グループ内で作られた食事を皆んな盛り付けをしたり、テーブルのセッティングなどして入居者と職員が同じ食卓を囲み食事を楽しんでもらうよう努めている。	月2回程度、昔の懐かしいおやつ作りなど計画して見られてはどうでしょう。ADL(日常生活動作)低下防止にもう役立つのではないのでしょうか？
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた食事の提供、10時と3時の水分補給を行うと共に、水分不足にならないよう随時気配りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後(3回)全員の方に歯磨きを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導に加え、随時誘導し支援している。	一人ひとりの排泄のパターン、習慣を活かして無理のない対応で自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	しっかりと水分を摂って頂いたり、日頃から予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月・水・金と一応決めてはいるが、体調や希望により随時入浴できるように配慮している。	風呂好きで湯船から出たがらない人、入浴を拒む人などさまざま、言葉掛けの工夫など(足浴、清拭)一人ひとりの気持ちや習慣に合った支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後休んで頂く等、一人ひとりその日の体調に合わせて生活して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが薬効を確認、服薬の確認をしている。薬剤師による、在宅服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌・ぬり絵・貼り絵等様々なレクリエーションを行うことで、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の良い日には近場にドライブ等行っている。ご家族の方にも外出協力して頂いている。	吉井川土手沿いを四季を通じてドライブ、散歩を実施、行事として遠足をテーマに家族同伴で出かけ楽しんでいる、3~4人で街へ買い物にも出かけるなど、外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難なため、ご自分で使われる方は、現在居られない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人からの便りを喜ばれる方が居る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンをしっかり開け、明るい場所を提供している。テーブルに花等を飾って季節感を出している。	共同空間は温度調節がされ、フロアーには大きな紫陽花、見事でした。又七夕さまへの願い、これから、ひまわり作りを楽しみにしておられた。 新ユニット、厨房に主を置き、目配り、気配りと工夫がなされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が一人ひとりの心地よい場所になるように、席の配置に気を配り、穏やかに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の使いなれた(茶碗・お箸・コップ等)物を使って頂く事で、心の安定を図っている。	自分が住んでいた部屋同様に家族が来られセットされていた。思い出の品々が持ち込まれ一人ひとりの入居者の心地良さを配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じて、ポータブルトイレ等の設置などを考慮し、自立支援を行っている。		